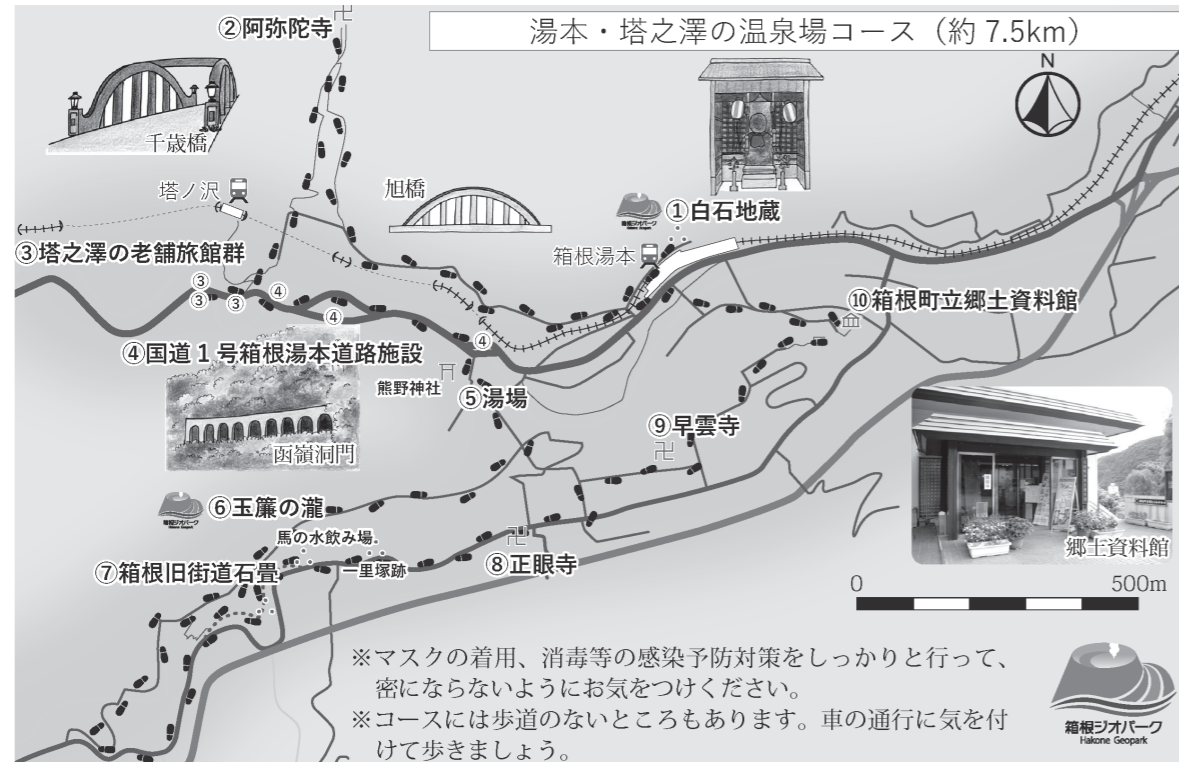


地域を知ろう！歩こう！

新型コロナウイルスの影響で自宅にこもりがちになり運動不足になっていませんか。地域の歴史や文化も学べるウォーキングコースを紹介します。是非、歩いてみてください。



このコースの見どころ

- ①白石地蔵……鎌倉時代後期に造られたお地蔵さまを中心とした、箱根で盛んだった地蔵信仰にまつわる史跡です。早川凝灰角礫岩という石で造られ、箱根ジオパークのジオサイトにもなっています。
- ②阿弥陀寺……慶長9年(1604)に木食僧弾誓上人によって開かれたお寺です。弾誓上人が修行したと伝わる奥の院の洞窟が今でも残されています。
- ③塔之澤の老舗旅館群……国道1号沿いに環翠楼、一の湯、福住楼といった老舗旅館が建ち並んでいます。これらは明治から大正期にかけて建てられたもので、いずれも国の登録文化財となっています。
- ④国道1号箱根湯本道路施設……昭和5年から8年にかけて造られた千歳橋、函嶺洞門、旭橋は国の重要文化財に指定されています。明治時代に整備された箱根越えの道を象徴する近代化遺産群です。
- ⑤湯場……中世から温泉場として栄えていたのが熊野神社の下の「湯場」と呼ばれる地域です。箱根温泉発祥地の碑や明治10、11年に建てられた福住旅館の建物(国重文)に古い歴史が感じられます。
- ⑥玉簾の瀧……天成園の敷地内にある高さ約8m、幅約11mの滝です。二つの地層の間から水が玉すだれのように落ちることから名付けられました。箱根ジオパークのジオサイトになっています。
- ⑦箱根旧街道石畳と一里塚……県道から少しそれて細い道に入ると、江戸時代の東海道に敷かれていた石畳が残っています。その他、馬の水飲み場と呼ばれる石の桶や一里塚の跡も見ることができます。
- ⑧正眼寺……建武2年(1335)の史料にも記される湯本地蔵堂を前身とするお寺です。現在の本堂の建物は、もともとは実業家今村繁三の別荘として建てられたものが昭和6年に移築されたものです。
- ⑨早雲寺……戦国時代を通じて、小田原北条氏の菩提寺として、また、臨済宗大徳寺派の関東の拠点として栄えましたが、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原攻めの際に火を放たれ、その後寛永4年(1627)に再興しました。北条早雲の肖像画(国重文)など、多くの寺宝を所蔵しています。
- ⑩箱根町立郷土資料館……箱根が温泉を中心に観光地として発展していく様子を絵図や古写真などを用いてわかりやすく紹介する博物館です。そのほか、箱根に関するテーマで企画展なども開催しています。

照会先 教育委員会 生涯学習課 ☎85-7601



箱根ジオパークの再認定審査について

小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町・南足柄市の2市3町をエリアとする「箱根ジオパーク」は、日本ジオパーク委員会による再認定審査を受けます。

箱根ジオパークは、平成24年に南足柄市を除く1市3町で日本ジオパークに認定され、平成28年には南足柄市を編入して新たに認定されました。

日本ジオパーク認定後は、4年毎(条件付き再認定の場合は2年)に再認定審査を受けることとなっており、前回の認定から4年が経過したことから、日本ジオパーク委員会による再認定審査が行われます。

前回は南足柄市を編入したことに伴う新規認定審査だったため、現エリアでの再認定審査は初めてのこととなります。再認定審査では2名の調査員を迎え、3日間にわたる現地調査が行われます。現地調査では、拠点施設の職員やガイド団体とともにこれまでの活動報告やジオサイト・拠点施設の見学など、箱根ジオパークの実績や見どころを紹介します。

現地調査は10月14日～16日に行われました。その様子は、次回の広報はこねでお伝えします。

前回新規認定審査の様子



プレゼンテーション



現地調査 ジオサイト「大涌谷」



現地調査 ジオサイト「夕日の滝」(南足柄市)



審査結果発表(加藤修平南足柄市長(左)と山口昇士会長(右))